

# みなとしみず

国土交通省中部地方整備局  
**清水港湾事務所**  
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所  
 静岡市清水区日の出町7番2号  
 TEL. 054-352-4146 (代表)  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

## ～CONTENTS～

- セレブリティ・ミレニアムが清水港初寄港！ ○にっぽん丸が田子の浦港に寄港しました！ ○特集 三保ケーソン製作場！
- 清水港湾事務所工事安全大会 ○県外小学校・ネパールの中学生が清水港見学！ ○シリーズ「エアガール」東京ー下田ー清水定期航空路③

## セレブリティ・ミレニアムが清水港初寄港！

平成26年9月30日(火)午前、米国のクルーズ会社が運航する大型客船「セレブリティ・ミレニアム」が清水港に初入港しました。(10月24日、27日に再入港しています。)清水港に入港した客船としては過去最大で、全長294m、総トン数90,963トン、乗客定員2,368名の巨大な船体は、さながら動く豪華ホテルのようです。同船は横浜港を出港し、日本、韓国、中国などの東アジアを巡るクルーズの途中に清水港(日の出埠頭)に入港しました。

船内見学会では、レストランや、プール&ジャグジーなどの施設が公開され、あこがれのクルーズライフの様子を紹介していただきました。

日の出埠頭では、歓迎セレモニーが催され、海辺のマルシェ海の駅「SHIMIZU」のブースでは、静岡の名産品の販売や、着物の着付け体験など、多くの乗客で賑わっていました。

同船は、富士山を巡るツアーなど静岡を満喫した乗客を乗せて、午後3時半に小学生児童による港かっぱれの演舞や演奏が行われる中、大勢の人に見送られ、次の寄港地である大阪港に向けて出港しました。



《海辺のマルシェ海の駅「SHIMIZU」賑わいの様子》

## にっぽん丸が田子の浦港に寄港しました！

平成26年10月22日(水)午前、ロイヤルブルーの船体と赤いラインが目を引く、商船三井の客船「にっぽん丸」(全長166.65m、総トン数22,472トン、乗客定員524名)が高松港を出発し、愛媛、八丈島を巡るクルーズの途中に田子の浦港(中央埠頭)に初入港しました。今回、乗客から「世界遺産の富士山が見られる近い港に」との要望を受け田子の浦港に入港したものです。

当日は、歓迎セレモニーが催され、鬼太鼓座の演奏や、かぐや姫クイーンから船長へ記念品の贈呈などが行われ、シラスやお茶の販売、富士山関連グッズの販売コーナーもあり、乗客の皆様をもてなしました。

乗客は地元の観光を楽しんだのち、同船は富士市消防楽団による演奏や、大勢の人に見送られ、香川県高松港に向けて出港しました。



## 特集 三保ケーソン製作場！

三保ケーソン製作場は、昭和43年(1968年)に、防波堤、岸壁用ケーソンを製作するために整備され、建設から46年の間に、約460函(かん)のケーソンを製作し、清水港、御前崎港のみなどの整備に重要な役割を果たしてきました。

施設の特徴としては、横引きレールと進水斜路、加えて横引台車ごとケーソンを載せて進水する大型の進水台車と台車を動かすためのウインチを有していることです。これにより大型の起重機船(クレーン機能のついた作業船)を使用せず、ケーソンを海中に降ろす作業(進水)が可能となり、工事費の削減に大きく貢献してきました。また、製作可能なケーソンの最大重量は、2,000tであり、建設当時では我国最大級のケーソン製作場の一つでした。

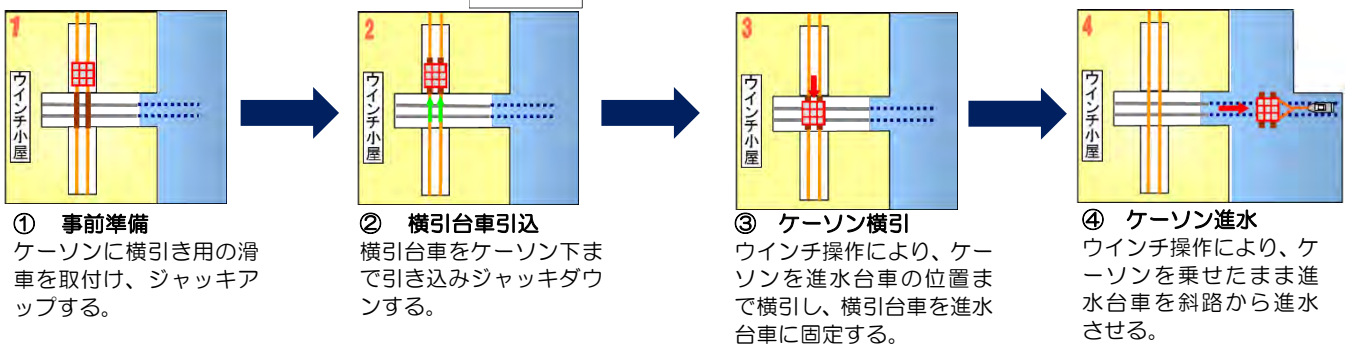


### ～ケーソンとは？～

ケーソンとはフランス語で「大きな箱」を意味し、防波堤や岸壁の本体によく用いられる鉄筋コンクリート製の構造物です。(新興津防波堤に据付をするケーソンの大きさは、高さ11m、幅14.5m、奥行き15.5m、重さ約1,600トン)



### ～ケーソン進水の流れ～



① 事前準備  
ケーソンに横引き用の滑車を取付け、ジャッキアップする。

② 横引台車引込  
横引台車をケーソン下まで引き込みジャッキダウンする。

③ ケーソン横引  
ウインチ操作により、ケーソンを進水台車の位置まで横引き、横引台車を進水台車に固定する。

④ ケーソン進水  
ウインチ操作により、ケーソンを乗せたまま進水台車を斜路から進水させる。

## オーク建設工業(株) 伊藤様にインタビュー！

今回は、三保ケーソン製作場で長年ケーソンの製作に携わっておられる伊藤さんに、三保ケーソン製作場について、お話をお聞きしました。

- 伊藤さんはケーソン製作に関わって何年になりますか？
- ◎ ケーソン製作作業は御前崎港の防波堤から始まって、今年製作した清水港の防波堤のケーソンまでで、約30年ほど前から関わっています。  
これまでに200函以上のケーソンの据付作業に関わっています。
- 今回は三保ケーソン製作場についていろいろお聞きしたいのですが、製作場では主にどんな作業を担当していますか？
- ◎ ケーソンの製作作業も行っていますが、ケーソンを海中に降ろす進水操作をウインチ小屋からやっています。ウインチの操作は遠く離れた所のワイヤーを操作するので直接自分の目で確認が出来ないんです。そこで他の作業員と無線で連絡を取合い操作を行うことで安全にケーソンを海中に降ろしています。また、ウインチの操作はマニュアル通りにはいかず、操作室でのワイヤーの巻取り量と、実際の巻取り量の違いなど様々な微調整が必要なんです。実際にケーソンを進水させるときは事前に試運転などを必ず行って、どんな小さなことでも見逃さないように心がけています。
- 微調整や試運転など長年の経験があるから「ケーソン進水作業」が安全にスムーズに行えているんですね。
- 最後に、「みなとしみず」を読まれる方にひとことお願いします！
- ◎ ケーソンの製作は、自分が造ったものが地図に残るとてもやりがいを感じる仕事です。船や港関係の仕事に もっと興味を持ってもらい、たくさんの方が「清水」で仕事をしてくれたらいいなと思います。





## 清水港湾事務所 工事安全大会

「無事故・無災害を目指した静岡の港づくり」と題し、平成 26 年 10 月 29 日（水）清水マリニビルにおいて、発注者側の当事務所職員及び当事務所管内（清水港・御前崎港・田子の浦港・下田港）の工事受注者が一堂に会し、港湾工事における安全対策の充実、安全意識の向上、安全管理のより一層の徹底を図ることを目的とし、「清水港湾事務所 工事安全大会」を開催しました。

当日は、静岡労働基準監督署及び清水海上保安部による講演、中部地方整備局（道路部、港湾空港部）による講話、工事受注者による「各現場の無事故・無災害に向けた取り組み」として「工事安全スローガンの提唱」がされ、本大会の開催により、出席者の工事安全に対する再認識、また、安全活動の推進を図りました。



<講演の様子>

## 県外小学校・ネパールの中学生が清水港見学！

平成 26 年 9 月から 10 月までの期間に、八王子市立上川口小学校 5 年生（10 名）、山梨市立三富小学校 5、6 年生（18 名）の 2 つの小学校が、総合学習の一環として清水港を見学しました。

八王子市立上川口小学校の見学会では、当事務所会議室で清水港の概要説明（ビデオ）を行ったあと、「フェルケル」に乗船し、海上から清水港の施設の説明を行いました。

山梨市立三富小学校の見学会では、三保ケーソン製作場の陸上見学を行ったあと、港湾業務艇「まさき」に乗船し、海上から清水港の説明を行いました。また、清水コンテナターミナル（株）のご協力をいただき、コンテナの種類、コンテナターミナルの諸施設などについて、説明していただきました。

児童の皆さんからは、「コンテナをあんなに近くで見れると思わなかった」「港についていろいろ知れてよかった」「ケーソンが大きくてびっくりした」などの感想を聞く事ができました。

普段は見る事が難しい国際コンテナターミナルの荷役や整備状況などを船上から見学することにより、港の重要性を理解して港をより身近に感じていただけたらなと思っております。



### ～ネパールカトマンズの中学生～

平成 26 年 10 月 14 日（火）、ネパールから学校法人国際ことば学院日本語学校との交流を目的に 14 名の中学生と引率の先生 2 名が清水港を視察しました。

当事務所会議室にて静岡県と清水港の概要について説明した後、港湾業務艇「まさき」に乗船して清水港内を案内しました。

参加者の皆さんは、初めて船に乗って海と港の施設を間近で見学できたことに興奮が隠せない様子で大変喜んでいました。最後に記念写真の撮影をした後に、感謝の言葉を学生たちからいただき、微力ながら清水港の案内を通じて日本とネパールの友好親善に貢献できたのではないかと思います。



## シリーズ「エア・ガール」 東京ー下田ー清水定期航空路③（全4回）

※このシリーズは県内で知る人が少ない「東京-下田-清水定期航空路」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載3回目です

1929（昭和4）年11月17日に東京ー下田の定期便の運航を開始した東京航空輸送社は、翌年、逓信省航空局・静岡県水産課より魚群探見飛行を受注して、清水港との関係が出てきます。現在のように魚群探知機による漁が行われる以前は、船上からの目視により海鳥の群れを発見する事によって、水中の魚群を捕える方法が主流でした。三保に飛行場を開設した飛行家根岸錦蔵氏は、飛行機より海鳥の群れや直接魚群を発見し、漁船に伝える方法「魚群捜査飛行」を静岡県水産課に提唱しました。当時は飛行機、漁船共に無線機等通信手段がなく、飛行機からは「方角・距離」などを記載した通信筒を漁船の近くに投下する方法が用いられました。この事業は、一定の成果が認められ、海防議会より第8義勇号、第9義勇号として、中島15式水上偵察機2機が貸与される契約が成立しましたが、この貸与に関して、根岸氏と静岡県水産課、逓信省航空局の間に契約方法の行き違いなどによる不幸なトラブルが発生し、以降「魚群探見飛行」として東京航空輸送社が引き継ぐ事になりました。

一方、東京ー下田の定期便も2名乗りながら、機体数が増え、この年（昭和5年）4月1日より下田ー沼津ー清水まで延長され、便数も週2便往復となり、速達郵便等の郵便の取扱量も増えました。（1930年 貨物3085kg、郵便物290kg）

1931年（昭和6）年2月5日に行われた「エア・ガール」試験は応募者140名余りの中から、1次試験合格者でまず10名が選抜され、最終合格者は3名という合格率2パーセント程の狭き門となりました。日本初の「エア・ガール」は先進的な職業として人々の関心を集めたようで、いち、民間企業の採用試験にも関わらず、翌6日の新聞各紙の紙面を賑わせています。

東京朝日新聞は、1次試験合格者10名の氏名を掲載し、その横顔を紹介している。首席候補として1次試験に合格したのは、フェリス女学院を3月に卒業を見込みの本山英子さん（当時20歳）。彼女は読売新聞の取材に対して、「私は飛行機が大好きで将来は女流飛行家になるつもりです。エア・ガールを志願した事は札幌にいる父には内緒です。飛行機にはまだ乗った事はありませんが、少しも怖いとは思っていませんし墜落の惨事など念頭に置いていません。3月から採用されたら大いに我々女性の為に航空思想を奨励開豁する覚悟です。」と意気込みを語っている。同じく合格を確実視されていたのは、和田正子さん（当時19歳）。彼女も第一高女では、バレーボールの選手でしたが、何度か所沢の飛行学校に見学に行くなど、飛行機に魅了されたようです。東京朝日新聞には「女流飛行家なんて考えてはいませんが、卒業しても家で遊んでいてはつまりません。それにこれからの女はせめて自活の道くらいは・・・」と答えています。

合格者の年齢は18歳から20歳、その大半が高等女学校の在學生や卒業生など教育水準の高い女性で占められ、飛行機を使った新しい職業に対する女性たちの期待の大きさが伺えます。

埼玉県所沢市にある所沢航空発祥記念館には、昭和6年3月5日に行われた実際に愛知 AB-1 水上旅客機を使った2次試験の際の写真が残っています。当日は合格者10名のうち8名が参加していて、当時の女性たちの服装も含めて興味深い貴重なものです。



所沢航空発祥記念館（埼玉県）

山口博史（やまぐちひろふみ）昭和43年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。下田市取材中に「東京ー下田ー清水」定期航空路に関わった旅館に出会い、10年以上各地で調査している。

### 海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

**0120-497-370**

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関する事
- ・総合的な学習時間に関する事
- ・みなとの構想や計画に関する事
- ・海洋土木技術に関する事
- ・みなとの防災に関する事
- ・その他、海とみなとに関する事は何でもお問い合わせください

### ■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

野村・西村Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp